

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1291700308		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	千葉県佐倉市西志津7-14-3		
自己評価作成日	令和6年12月29日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和7年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念をもとに、一人一人に寄り添った支援を心掛けています。全職員が1、2階全入居者様を支援している為、1、2階の入居者様どうしの交流がはかりやすかったり、イベントが楽しめたり、柔軟な対応が出来ている。自立支援を掲げ、それぞれに出来る事を見出し、まわりとの関わりを持ちながら、生き生きとした表情を引き出せるよう努めています。季節を感じ、生活を楽しんで頂けるよう、一年の行事や日常のレクリエーション等、企画立案し「表情のある暮らし」の実現に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は1、2階の両方の利用者を担当しており、利用者に関する情報を職員間で共有しているので、活発な意見交換がある。合同イベント時なども利用者の見守りがしやすい。また、2階の利用者が1階の機械浴を利用した時や、1階でおこなう美容のカットの時にお茶を一緒に飲むなど、日常的に1、2階の利用者の交流が図られている。コロナによる面会や外出の制限が昨秋に外れ、友人の来訪、外気浴、散歩、習い事、買い物、芋ほりや自宅外泊など外出する機会が多い。一日の終わりに「今日はよい日でしたか」と意識して問いかけ、利用者から笑顔を引き出すようにしており、理念「喜怒哀楽の表情のある暮らし」の実現に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をわかるところに掲示し、毎朝の申し送りや唱和し、理念に沿ったケアをスタッフ全員で心掛けている	ホームの理念はパンフレットや玄関に掲示されている。毎朝の理念の唱和の他に、月に1回開催する1、2階合同のフロア会議で職員個々が支援の振り返りをおこない、管理者や職員同士で実践について話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は地域のお祭りや研修にも参加させていただき、地域や子供たちとの交流がはかれた	自治会に加入して地域の情報を収集したり、ゴミゼロ運動にも参加している。公園で開催した地域の夏祭りに利用者が参加したり、公民館の研修に職員が参加をするなど日常的に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方やご家族に向けて認知症の研修をしたり、意見交換をしたりしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症報告や事故報告、ホームの運営状況報告など適宜実施している。参加者からの意見交換の機会も都度作っている	運営推進会議に地域包括支援センター職員、民生委員や薬局も参加している。ホームの活動報告などの他に、薬に関する質疑やアドバイス、民生委員による情報提供など活発な意見や情報の交換がされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ挨拶に行ったり、電話で相談をしたり、良好な関係づくりに努めている	市高齢福祉課へグループホームに関する定期的な情報を提供し、アドバイスを受けるほか、月1回市役所を訪れ、市が関係する研修や催事、認知症家族会などの情報収集をおこなって活用している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に委員会を開催したり、研修を実施したり、フロア会議の場で定期的に指針を確認し常に振り返りながらケアにあたっている	「身体拘束」「虐待」に関する法人研修を受講する他、言葉の遣い方、利用者に話す時の目線の高さや自分の位置、声の大きさなど具体的な行動様式を目標設定して、3か月ごとに確認をし合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に委員会を開催したり、研修を実施したり、フロア会議の場で定期的に指針を確認し常に振り返りながらケアにあたっている			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ機会はあるが、職員間で浸透し深い理解まではできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要な部分は丁寧に説明し、同意を得たうえで入居頂いている、改定時は本部からご家族に通知を送り同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や相談がある時は、時間をもうけ、話をしやすい環境づくりに努めている、家族間どうし、ホームへの意見が言いやすいよう家族会を設定し意見交換をする場をもうけている	面談の来所時に意見や要望を聞くほか、不定期ではあるが、利用者の日常の様子をコミュニケーションアプリで家族に発信する時に意見を聞き、それらをフロア会議に諮り、支援に反映させるようにしている。	現在おこなっているホームの行事を年間行事計画としてまとめ、事前に家族に伝えることで家族が参加・来訪する機会を増やし、意見収集の増加につなげるなどの工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や相談がある時は個別に時間をもうけ話をする機会を作っている、半年に一度個別面談を実施し定期的に話を聞く機会を作っている	個人面談では個々の目標を設定し、家庭環境、勤務の変更、体調の様子を確認するほか、相談事や意見要望なども収集している。職員総意としての意見交換はフロア会議でおこなっており、それらの結果を支援に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをもって働けるよう、スタッフの得意や長所を生かした仕事の割り振りをしたり、給料水準を上げるための入居率を上げたり、工夫をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が定期的であり、必要な研修に必要な職員が参加できるよう、興味のある研修に参加できるよう工夫している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の系列施設に助っ人に行ったり、社内研修などで顔を合わせ交流を図ったりと、互いに意見交換し向上し合える雰囲気づくりに努めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わる事の不安を傾聴しながら、どのような暮らしを望まれるか等よく話を聞き、少しでも安心して生活が送れるような環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴や、どのように生活を望まれるか等話をよく聞き、相談や意見を伝えやすい環境づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの利益にとらわれず、ご本人、家族にとってどのような支援がよいかを一番に考え、いろいろな選択肢を提案し、地域としての助言を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される人。として接するのではなく、あくまで自立した生活の継続、できる事、できない事を見極め、できない部分を支援していく、表情を引き出して生き生きとした生活を送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より、イベント行事は手伝いたい、食事介助などできることは一緒に関わりたい。など意見を頂き、ご家族も一人の入居者様と一緒にサポートしていくチームと捉え、参加型で支援していけるような体制づくりをしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナとの付き合い方が緩和されてきて、外出も自由となり、習慣の習い事や買い物等も継続できるようになった、自宅へ帰れる機会も増えた	近隣に居住していた利用者が多く、クラブ活動への友人の来訪、これまで通っていたカラオケ教室に家族の協力で行く、馴染みの店に車で買い物に行ったり、知人に電話を掛ける際に手伝うなど、これまでの生活を楽しむような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルに集まり談笑したり洗濯物をたたんだりお茶を飲んだり、入居者様が孤立しないように、スタッフが間に入りながら良い関係性作りに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、困っていることはないか？等連絡をし、必要に応じ助言したり、何かあれば相談くださいとお声掛けをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からスタッフ間で情報の共有をし、良い表情や好きな事、楽しみなど見出しながらそれぞれのペースで生活を楽しんでいただけるよう支援している	日常の会話から思いを聞き取り、日誌に記録し職員間で共有している。できることを見つけ出し、役割としている。飲み物を選んでもらう時には、文字や絵で分かりやすく示して、好きなものを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人や家族から、どのように生活していたか、趣味や好きな事、一日の生活のリズムなど聞きながら、ホームで大きな混乱なく生活が送れるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化に気づいた時は、医師やナースに伝え健康の管理に努めている、できない事に目を向けるのではなく、できることは何か？に視点を置き、スタッフ間で情報を共有し、有する能力を維持できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	重要な場面では、ケアマネ、管理者、医師、ご家族等で話し合いの機会をもうけご本人や家族の不安な気持ちや考えなどじっくり話を聞く機会を作り、プランに反映できるよう努めている	計画作成担当者がモニタリング、アセスメントをし、家族の意見を加味し、必要に応じて看護師の意見も入れて暫定プランを作成、ケアマネジャーが確認の上で、本人や家族に提案して本プランにしている。変化があった場合は、その都度検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や気づきをフロア会議や申し送りなどで情報を共有し、ご本人のできる事を継続できるよう支援している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの要望、ご意見を前向きに検討し、ホームで出来る範囲の柔軟な支援を心掛けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防や警察など緊急時や災害時などに備え、連携をはかっている、地域住民にもこちらから挨拶をしたり、良好な関係性づくりに努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療の医師が必要に応じ、もともと掛かっていた病院など、ご本人、家族の希望があれば継続して通院できるような体制を整えている	月2回の訪問診療、週1回の看護師訪問により健康管理をしている。専門医の受診が必要な場合は、医師の指示で受診している。希望により訪問歯科、訪問眼科の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有システムを利用し、看護師が日常の様子や健康面を把握しやすくなっている、相談や連絡も密にとれており、医師やご家族との必要な支援や助言をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、病院と訪問診療医との情報共有が円滑にいくよう努め、安心して治療やその後の生活が送れるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議などで、お看取りケアについて、ホームでのお看取り事例などを議題に挙げ、いづれくるお看取り期について早い段階で考える機会を作ったり、不安な部分を傾聴したり、後悔しないような過ごし方を考えたりする機会をつくっている	利用開始時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を基に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、医師が家族に説明し、方針を決めている。看取り希望の場合は、看護師と連携して職員の勉強会をおこない、利用者、家族に寄り添う支援に努めている。また、看取り後の振り返りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修と、フロア会議などで勉強会を開催し、急変時や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成、定期的に更新し、年に2回以上の防災、災害訓練を実施し、日頃から近隣住民と挨拶をしたり、非常時に協力体制をとれるような体制づくりをおこなっている	年2回避難訓練をおこない、施設内での避難場所及び備蓄品の保管場所の確認をしている。感染症、災害のBCPは作成済みである。	災害時における感染症などのBCP研修や具体的な場面想定訓練を期待する。また、地域住民との連携もさらに図るとよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性を尊重し、排泄や入浴など羞恥心やプライバシーに配慮したケアを、定期的にフロア会議などで研修をしている	毎月開催のフロア会議でプライバシーの確保について研修している。日常の声掛け、トイレ誘導時、入浴時、居室入室時等具体的な場面でのプライバシーについて話し合い、プライバシーを損なわないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日やりたいこと、着たいもの、飲みたいものなど、日常の中で選択をする場面を作り、ご本人の希望に添えるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活時間はあるものの、食事の時間や就寝時間など、生活リズムを個々に合わせたり、その日の体調や気分に合わせて、臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択できる方には自由に選択して頂いている、イベント時などは、おしゃれをして出掛けたり、気分転換をして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれにできる事(買い物、野菜の皮むきや、盛り付け、食器拭き、テーブル拭きなど)をアセスメントし、それぞれが食事を楽しめるような工夫をしている	食材業者から材料を購入して調理は職員がおこなっている。利用者にも盛り付けやテーブルふき、食器洗いなどに参加してもらい、見守っている。毎月、インドネシアの職員が自国の料理を作ってくれる日があり、利用者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の組んだバランスの良いメニューを提供している、食事や水分量を記録に残し、適切な量を把握し、医師や看護師らと定期的な見直しをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをご自分でできる部分はセッティング見守りをおこない、できない部分は支援している、また訪問歯科の口腔助言指導を受け、日常の口腔ケアに反映している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレでの排泄が極力継続できるよう、スタッフ間で話し合いながら支援している、排泄表を活用しながらそれぞれに合った適切な排泄のタイミングを探っている	排泄の自立に向けた取り組みとして、トイレでの排泄を基本にしている。一人ひとりのタイミングで声掛けをしたり見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力下剤に頼らないよう、飲水しやすいタイミングや量や、飲みたいものをスタッフ間で共有し、便秘の改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなかご希望に沿った時間や曜日の入浴ができていないのが現状、入浴時間や湯の温度などはご本人の好みに合わせている	入浴は週2回を基本にしているが、体調や気分で変更する場合もある。入浴用のリフトを設置しており、歩行が不安でも浴槽に入ることができる。好みの音楽をかけたり、入浴剤で楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や体調に合わせ、日中に横になったり、日中なるべく活動を促し、夜間安眠できるような工夫を心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時や入居者様に変化がある時などは、スタッフが日常の観察をし、医師や薬剤師に適切に伝え、適切な量や薬の見直しができるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活でいろいろな家事やイベントやレクリエーションをおこない、ご本人が興味を持てる事や良い表情をされている時など共有し無理のない範囲で参加していただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、その日に外出がなかなか出来ない現状。ベランダで日光浴や外の空気を吸いに出かけるなどは適宜実施している、続けたい習い事(カラオケなど)はご家族の協力のもと続けられるよう支援している	桜見物や、サツマイモ堀等に外出している。また、家族とカラオケ教室に出かける利用者もいる。今後は、個別の外出なども予定している。外出できない時はベランダに出て外気に当たるようにするなどしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の要望がある場合は、認知症がある共同生活の場であるというリスクをお伝えしたうえで、自己管理して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には携帯を所持し、ご家族と連絡が取れる状況をつくっている。またホームの電話は自由に使って頂いている、タブレットを利用し対面の通話ができるような環境を整えている、知人からのお手紙やはがきをご家族が届けてくれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光で居心地の良い環境を整えたり、温度湿度計を設置し、冷やし過ぎたり暖め過ぎたりせず、季節を感じていただけるような雰囲気づくりに努めている	時節柄、リビングには七段飾りの雛壇があった。また、生け花を飾るなど季節を感じることができる。空気清浄機を設置し、居心地よく過ごせるようにしている。訪問時には、トランプやジグソーパズルを楽しんだらい、体操をする利用者の様子が見られた。また、プランターでは花や野菜を植えて楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファやベランダで日光浴をしながら談笑したり、スタッフが把握したうえで居室で会話を楽しんだり、洗濯物をたたみながら自然と集まっておしゃべりしたり、思い思いに過ごしていただけるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内、慣れ親しんだ家具や私物を持ち込んでいただき、家族の写真や手紙などいつでも見えるようにし、居心地の良い環境づくりに努めている	使いなれたタンス、好みのカーテン、家族の写真、記念の盾等、利用者は思い出の品に囲まれて過ごしている。ベッドは、使いやすさと安全を考えた配置にしている。また、温度湿度にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分に手すりを設置したり生活しやすい環境を整え、危険回避の最低限の能力は損なわないよう、見守りに努めながら支援している		